

Contents Sheet

Contents: 身近にひそむ危険回避



The contents of contents

人間の神経伝達速度0.04秒。一般的に脳の神経細胞の数が減少します。しかし、脳は使う事によりこの減少を部分的に補うことができます。老化を知る!!! 眼は加齢とともに、水晶体が硬くなり、近くのものに焦点を合わせにくくなるなど変化が起こります。危機管理能力向上! 目指せ! 007 自分の身は自分で守りましょう。(講習型 80,000円 交通費別途)

PERSONAL DATA

NAME / 砂子塾長(本名・砂子智彦)元レーシングドライバー
 PART / 講師・インストラクター INTERPRETER AGE / 1964.11.6 東京都大田区生まれ
 SPECIALTY / 水泳とか得意なものを入れ LICENSE / 普通自動車など

CAREER

日本ドライバーズインストラクション協会理事
 セーフティドライビングインストラクターズアカデミー
 FIA/JAFコンペティションライセンス国際B
 現・Tokyo Virtual Circuit
 Simulator Instructor

1985年20歳で4輪レースデビュー。以後、日本のトップレーシングドライバーとして、全日本F3選手権やおもにスーパー耐久、スーパーGTで活躍。スーパー耐久では二度のシリーズチャンピオンを獲得。スカイラインGT-R、ポルシェ使いとして有名。

1998年5月3日富士スピードウェイで行われた全日本GT選手権でポルシェを操り、炎に包まれる多重クラッ

シユに巻き込まれる。火傷、全身打撲、右膝粉碎開放骨折の重傷を負うも僅か半年後の11月に奇跡の不死鳥復活を果たす。2003年、そのクラッシュをドキュメントした奥山和由監督作品映画「クラッシュ」にも出演。ドライビング塾『砂子塾』を主催。塾生は全国に100名を越え、「砂子塾長」の名で多くのファンというより『信者！?』を持つカリスマ。

また、雑誌執筆やTVキャスターとしても長年に渡り活躍。多くのファンの惜しむ声の中、2008年11月16日を最後のレースとして現役を引退。引退セレモニーは大観衆に包まれた。

現役時代、国内外自動車、タイヤメーカーの開発テストや数多くのセーフティ・レーシング・ecoドライブなど多岐にわたるスクールの講師を務め、講師依頼の多さからライセンス名を「砂子塾長」に変更するほどの日本ドライビングインストラクションの第一人者である。

現役引退後、夢であった「南の島・西表島」で大自然と共に暮らし、2011年4月に帰還。第3ステージである「人と地球にやさしいクルマ社会」の啓蒙に向けてスタートをきる。現在、日本初のRacing Simulatorトレーニングジムである東京バーチャルサーキットのインストラクター・ドライビングトレーナーとして未来のレーシングドライバー達を指導し、最新科学を取り入れた「新・ドライビング理論」の確立を目指している。